

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105040
法人名	有限会社 四ッ葉
事業所名	グループホーム 四ッ葉
所在地	愛媛県松山市桜ヶ丘643-2
自己評価作成日	平成22年7月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>* 四ッ葉の理念「健康、愛情、幸福、希望」を基に、利用者様の生きがいのある生活を支援しています。 ・職員は、利用者様の、健康面、精神面の観察をして、何時でもDrとの連携が取れます。家庭的な雰囲気の中で、希望を言い、笑顔で意欲的に過せるよう、自立支援に努めています。 ・ホームには、畑があり、新鮮な野菜が収穫できます。裏山もあり、静かな環境ですが、近くには、いろいろなお店があつて便利です。地域の行事にも参加し、交流しています。フラワーセラピー、アロマセラピーのボランティアや、パン屋さんにも来てもらっています。 ・職員は定着しており、利用者様、ご家族にも馴染みとなり、安心して頂けます。職員同士が助け合い、思い合い、何でも言いやすい環境にあり、同じ方向性で支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所では、毎月のお便りの中に運営推進会議の議事録と職員の勉強会の資料を入れてご家族に送付されている。熱心に目を通してくださるご家族もおられ「食事介助について」の勉強会の資料を見られたご家族から「その通りにやってみました」と感想をいただいた。運営推進会議時に事業所で行う転倒予防体操について説明された際、ご家族より「四ッ葉独自の体操を作ったらどうか」との提案があり、職員が作詞して「四ッ葉マーチ」を作り上げ、日々、歌に合わせて楽しく利用者と体操されている。 地域のタクシー会社にも協力いただき、無線を使って検索していただく等、利用者が行方不明になった時の搜索訓練が行われた。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 四ッ葉

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 窪田 美杉

評価完了日 平成22年 7月 31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者様の健康、愛情、幸福、希望を理念として掲げ、ホームに掲示、職員個人が携帯している。日々その理念を振り返り、利用者様一人ひとりにあった支援が出来るように話し合っている。 (認知症の理解を深めるよう努力している) (外部評価) 開設以来、四つ葉のクローバーの花言葉を理念とされている。理念をもとに「利用者がどうしたいかを探したい」等、ユニット毎に年間目標を立て、理念の実践に向けて取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 毎日散歩に出かけ、近所の方と挨拶を交わしたり、お話をすることが日常的になっている。バーベキュー等の行事に来て頂いたり、お餅つきのお餅や、野菜の収穫時期にはおすそ分けをしている。ご近所から筍やびわを頂く事もある。避難訓練に地域の方に参加して頂いたり、神輿や太鼓台が来ると、見学に来て頂いたり、盆踊りや、公民館行事に参加させてもらっている。 (外部評価) 日々、散歩しながら、ゴミ拾いをされている。敷地内の畑で採れた野菜を近所の方達におすそ分けしたり、又、裏の畑の方からは「柿を採ってくださいね」と言ってもらっており、毎年、利用者と一緒に干し柿を作っておられる。管理者は、事業所の所在する地域だけでなく、隣合う地域の方や民生委員とも交流が持てるよう心がけておられ、いざという時には協力していただけるよう働きかけておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 避難訓練の参加を呼びかけ、ご近所の方にも参加して頂き、地震の揺れ体験や消火訓練を一緒に行った。行事に参加して頂く事で、ケアの様子を見ていただいたり、いろいろな質問を受ける事もあり、グループホームでの生活や認知症についてお話しさせて頂いている。近所の方が見学や話を聞きに来られることもある。包括支援センター等の紹介をすることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者様の日々の様子や、ホームでの取り組み、今後の目標等の報告や毎回テーマを決めて発表や話し合いをし、意見を頂き取り組んでいる。テーマの中で、心肺蘇生を人形で実践して頂いたり、レクリエーションや行事に利用者様と共に参加して頂いている。会議での意見により、外出時の緊急連絡カードを作ったり、教えて頂いた所に外出したりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議では、事業所の行事等、活動報告を行われたり、外部評価結果を受けて作成する目標達成計画についても具体的な取り組みについて説明されている。又、転倒等、事故があった際にも報告して、転倒予防へ向けての今後の取り組みについて説明された。6月の会議には、事業所で行っている音楽療法のボランティアの方に出席していただき、音楽療法時の利用者の様子を話していただいた。</p>	<p>今後、事業所の中で会議を行うだけでなく「地域に出向いて会議を開催したい」と考えておられる。参加しやすい会議、又、ホームや認知症のことを多くの方に知っていただけるような会議に向けて、今後も工夫を重ねていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市長村担当者の方へ相談して意見や指導を受けている。事業者ケアマネ連絡会やグループホーム連絡会等、また運営推進会議で相談したり、多くの情報を頂けるようになり、ホームでの対応に活かせる様になった。行事にも参加して頂き、コミュニケーションが取りやすくなった。社協での作品の展示や、ジャズコンサートにも参加させて頂いた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議時、避難訓練の報告をした際、市の担当者の方から「火元もいろいろ想定して訓練を行うといい」とアドバイスをいただき、その後、火元や避難経路等を変えて訓練を行われた。歌がお好きな利用者が多いことから、広いカラオケボックスのある所を教えていただき、外出してカラオケを楽しむ計画を立てておられた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ミーティングや勉強会で話し合っって身体拘束をしないケアを行っている。言葉による拘束についても日々のケアの中で話し合っている。ベットからの立ち上がり危険な方には柵に鈴をつけたり、入り口に鈴をつけて対応している。日ごろより、居場所の確認に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、玄関は開放されており、出入りするとチャイムが鳴るようになっていた。一日に何度もスーパーに行かれる方もあるようだが、職員は、利用者が納得されるまで同行されている。地域のタクシー会社にも協力いただき、無線を使って搜索していただく等、利用者が行方不明になった時の搜索訓練を行われた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 運営者、管理者、職員共にミーティング時に勉強会をし、理解を深め、虐待防止に努めている。言葉による虐待については、日々のケアの中でも話し合っている。朝礼時に事例をあげ話し合うこともある。入浴時の皮膚の観察や職員同士が注意し合っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営者、管理者、職員共にミーティング時に勉強会をし、理解を深めた。 入居契約時には必ず説明をしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には時間がかかっても、すみずみまで丁寧に分からない事を尋ねながら説明している。起こりうるリスク等の説明をし、同意を頂いている。契約時には職員2名で対応し、もれないように努めている。入居後にも必要に応じ再度説明している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時には苦情等、その都度伝えていただくようお願いし、また外部の苦情申し立て機関の説明もしている。各ユニット入り口に意見箱を設置している。 普段から利用者様、ご家族とコミュニケーションを大切に信頼関係を築き、何でも言って頂けるよう努めている。 面会後には利用者様の様子等の意見を聞くようにしている。 ホームの行事、活動についても意見を聞いて計画している。 (外部評価) 事業所では、毎月のお便りの中に運営推進会議の議事録と職員の勉強会の資料を入れてご家族に送付されている。熱心に目を通してくださるご家族もおられ「食事介助について」の勉強会の資料を見られたご家族から「その通りにやってみました」と感想をいただいた。運営推進会議時に事業所で行う転倒予防体操について説明された際、ご家族より「四ツ葉独自の体操を作ったらどうか」との提案があり、職員が作詞して「四ツ葉マーチ」を作り上げ、日々、歌に合わせて楽しく利用者と体操されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 朝礼やミーティングで意見や提案を出し合い決定するようにしている。又、日々の活動の中で気付いた事は話し合える環境が築けている。申し送りノートとは別に、業務改善、意見交換ノートを作り、それぞれが意見を出し合って決定し、業務に反映している。	
			(外部評価) 事業所では、職員からの意見や提案について、みんなで話し合っ採り入れるようにされている。職員から「ホワイトボードにその日の献立を書くようにしてはどうか」との提案をあり、職員で話し合い居間の壁にホワイトボードを用意して、その日の献立を書くようにされた。時には、利用者が献立を書いてくださることもある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は毎日現場を訪れ、管理者との連携をとり、職員の状況の把握に努めている。残業手当、皆勤手当があり、有給休暇も取りやすい環境にある。休みの希望や、研修の参加を事前に聞いて勤務を組み、職員の意欲にもつながっている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員に研修の案内を回覧し、出席を勧めている。参加費用、交通費等を支給するようにしている。自主的に希望を出す職員も増えてきた。研修参加後にはミーティングにて報告、資料回覧している。また、職員の資格取得についても資料配布をする等の協力をしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域での連絡会に、職員も出席して交流を深めている。ホームでの行事(バーベキュー等)に来て頂き意見を頂いたり、近隣のデイサービスとは行事ごとに交流している。他施設の親睦会にも一部の職員ではあるが参加し、交流できた。研修会等でネットワークを広げ情報を得ている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談から利用に至るまでに、ご本人、ご家族のお話を聞いたり、ご本人に面談(出来る限りホームに来て頂く)し、心身の状況など細かくアセスメントしている。入居までに職員はそれの把握に努め、馴染みやすいように対応している。入居されて慣れるまでは、ご家族へ頻繁に来て頂くようお願いし、本人の思いや希望を、言ってもらえるように、ご家族の協力を得ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の相談時にはゆっくりご家族の思いを聞きご本人の状況や、ご家族の希望を伝えて頂けるように努めている。また、入居後、担当者は蜜に連絡をとり、様子を伝え、ご家族の協力を得ている。また要望や苦情があった時は、職員に周知し、対応している。	
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前に可能な限り、訪問して頂き、ホームでの生活の様子を見て頂いたり、一日の日課の説明をしたうえで、希望を伺っている。他のサービスの説明をして、必要に応じて理容やマッサージ等のサービスを受けて頂く様に努めている。入居当日には、事前の希望を聞き、作成したケアプランの説明をしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 理念に基づき利用者様の気持ちを理解し、共に笑い、共に泣き、家族の一員のように過ごし、学び支え合える関係作りに努めている。人生の先輩として、日々教えて頂く事が多く、職員はそういう場作りに配慮している。利用者様から気づかいをして頂く場面もよくある。	
19		本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は、ご家族と一緒にご本人を支えるため、ホームで出来る事、出来ないことを伝えて、ご家族にも支援に協力して頂いている。共に情報の共有に努めている。疎遠になっているご家族には心身の状況を話して、来所を促したり、電話で話をして安心して頂いている。個人携帯を持ち、話して安心されている方もいる。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔からの友人やご近所の方、親戚の方、姉妹等の面会がある。お盆やお正月にはご自宅で過される方もいる。散歩の途中で出会った知り合いの方にはホームに遊びに来て頂くように声かけしている。ご家族と、行きつけの美容室に行かれる方もいる。姉妹で入居されている方はご家族と一緒に外出したり、一緒に居室で過される。 (外部評価) 同級生や職場の同僚だった方が訪ねて来られることがある。友人と文通されている方は、散歩途中にコンビニで切手を買ったり、ポストに投函する等、やり取りが続けられるように支援されている。お盆には、ご家族と一緒に外出されたり、娘さんのお宅に外泊された方もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士のトラブルは日々起こっているが、孤立しないように職員が察知し間に入れるように配慮している。職員は起こった事の情報の共有が出来るようにしている。お茶、食事、レクリエーション等、職員も一緒に雰囲気作りに努めている。また利用者様同士の思いやりが表出できるような環境作りをしている。言葉に出せない方への配慮もしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後、ご家族から相談を受けることもあり出来る対応をしている。転居先、入院先に面会に行き、施設の方に様子を聞いたり、本人と話をしたりしている。情報は職員に伝えている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりの中で、ご本人の思いや希望が言いやすいような環境を作るように努めている。 出来る事は、職員間で話し合って支援し、出来ない事はご家族に相談したり、協力を得ている。希望が表出できない方には、思いを汲み取り、職員間で話し合っつて支援している。 (外部評価) 事業所では、センター方式の様式を用いて、利用者個々の情報を集めておられる。又、「個別支援マニュアル」を作成して、利用者一人ひとりの「できること・行っていること・支援の方法」等を具体的に示し、利用者が入院された時には、情報提供されている。職員は「利用者の声には何か思いがある。思いのもとを探りたい。利用者にも心も喜んでもらえるような一言をかけることができるように心がけている」と話しておられた。	職員は「利用者の得意なことを日常生活の中で採り入れていきたい」と話しておられた。日々、集めた利用者個々の情報を介護計画に十分に採り入れ、よりご本人らしい暮らしを支えていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に、ご本人、ご家族に細かく情報を得るように努めている。サービス利用先からの情報も頂いている。必要時には入居後にも連絡して聞いている。職員は情報が増えることに全員に周知している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズムを把握し、出来ること出来ないことを知り、見守りながら一緒にしている。何で笑顔を引き出せるか等、考えて対応している。また、一人ひとりの不自由は何かを話し合い支援している。様子の観察に努め、些細な変化でも申し送っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人、ご家族に希望を聞き、ケアプランに取り入れている。その方の状況や心身の変化に伴って、話し合いの場を持って、見直ししている。日々の生活の中で重要なことは職員同士が意見を出し合いケアプランに活かしている。必要なことはミーティングでも話し合いをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>計画は、3ヶ月毎に見直しをされている。管理者は、利用者が「どうしたいか」を探し、計画に採り入れていきたいと話されていた。入居前、長期間入浴が滞っていた方が入居され、ご本人が「毛染めをしたい」と言われたことをきっかけに、介護計画に採り入れて、訪問美容師に協力いただきながら、洗髪・毛染めをされた。そのことから入浴支援につながり、現在では、週に1度は入浴できるまでに至ったようだ。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の様子がよく分かるように、その方の心が伝わるような言葉やご家族とのやり取り、Drの指示等、細かく記録に残している。計画の評価が日々の記録に残せるように工夫したり、個人のケアマニュアルを作成し、記録用紙を開くと、内容が分かるようにしている。職員が情報の共有が出来るように取り組んでいる。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>外食等に月一度は出かけている。ホーム内の行事も頻繁に行っている。毎日その方に合わせた散歩や、週に一度は買い物にも一緒に行かれる方もいる。月に一度の受診の日にはご家族もホームの食事を一緒に摂って頂く方もいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域の活動に声をかけて頂けるようになり、利用者様にも参加して頂いている。散歩の途中でお店で買い物をしたり、犬や猫にふれあい楽しまれている。近所のお寿司屋さんへ食べに行くこともある。消防署の協力により、利用者様、ご家族、ご近所の方、職員全員で避難訓練をしている。パン屋さんに来てもらったり、ボランティアでフラワーセラピー、アロマセラピー等に、来てもらっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入居契約時にかかりつけ医の受診、往診等、医療連携について説明し納得している。又、他病院を受診される時には、医師同士の情報の提供がなされている。かかりつけ医と24時間何時でも連絡が取れ、指導を受けたり、緊急時に往診にきて頂ける。往診時、ご家族に同席して頂くこともあり、丁寧に説明して頂いている。</p> <p>(外部評価) 協力医は、毎週往診に来てくださり、利用者は2週間に1度、診察を受けられている。通院できる方は、外出を兼ね2週間に1度、職員が同行して通院されている。以前からのかかりつけ医を受診される方は、ご家族が付き添っておられる。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 何でも相談できる看護師が法人内に配置され、利用者様の把握をして頂き、指導を受けている。毎月のミーティングで看護師による日常の健康観察の仕方、緊急時の対応等の勉強会をしている。かかりつけ医の看護師が訪問し、利用者様の状態を伝え、指導を受けている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時にはご家族の同意を得て、サマリーや個別マニュアル等の情報提供を行い少しでも安心して過ごせるように支援している。入院中には病院を頻りに訪問し、情報をやりとりして、ご本人やご家族が安心して頂けるように支援している。運営者は病院訪問をして、Drや相談員との関係づくりに努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居契約時に、重度化に向けた話し合いをしている。ホームで出来る事、出来ない事の理解をして頂き、事前に医療行為の出来る施設に申請をお願いしている方もいる。常時医療行為が必要になった場合には、医師の判断により、ご家族と相談して対応できる施設や医療機関を紹介して頂くこともある。</p> <p>(外部評価) 事業所では、入居時、ご家族に「事業所でできないこと」を説明され、医療行為が必要になったり、重度化して事業所の浴槽での入浴が困難になった時等、事業所での生活が難しくなった時のために、特養等の申請をいただいている。又、入院が1ヶ月を経過し、これまでのホームの生活に戻ることが難しいと判断した場合は、ご家族と主治医を交えて話し合い、退居の手続きをとられている。</p>	<p>ご家族の中には、事業所での看とり支援を望まれる方がおられるようだ。事業所では、今後、医療行為が発生しない場合、事業所で最期まで支援することを考えておられる。終末期の支援については「事業所でできる支援」について話し合われたり、看取りについての勉強会を重ねられ、ご家族の協力も得ながら取り組みをすすめていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時や行方不明時のマニュアルを作りミーティング、勉強会で話し合ったり、イメージトレーニングに努めている。毎月ミーティングで応急手当や初期対応、観察の仕方等の勉強会をしている。人形で心肺蘇生のシュミレーション等もしている。研修にも参加している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、利用者様、職員全員が出席し、定期的に通報訓練、消火訓練、避難訓練をしている。又、耐震車に来てもらい地震体験もしている。ご家族、近隣の方、にも来て頂き一緒に体験し、ホームの中の様子を見て頂いている。避難計画を作成し、いつでも見えるところに掲示して職員はイメージトレーニングしている。 (外部評価) 年2回、避難訓練を行っておられる。近隣の方には「いつでも来ますよ」と言ってもらっており、訓練に参加していただき、事業所内や利用者の様子を知ってもらっている。訓練では、煙の中を避難する体験をされたり、夜間想定避難訓練時には、夜間働いている地域の新聞店にも参加していただき、いざという時に協力していただけるようお願いされている。地震に備え、敷地内の倉庫に水や食料の備蓄もされている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報保護法の理解に努め、必要な情報提供にはご家族の同意を得ている。記録物にも配慮し、勉強会やミーティングで利用者様の尊厳について話し合いをしている。声かけや対応で気づいた事や不安なことは、その都度話し合うようにしている。利用者様同士の間で不安が生じないように職員が配慮している。 (外部評価) 職員は「利用者へ声かけする時は、声のトーンを下げて、大きな声にならないように」又、「利用者へ慣れ合いにならないよう」「初心に戻ることを忘れないように」心がけておられる。調査訪問時、利用者の傍でゆっくりと穏やかに声かけされる職員の様子がうかがえた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりのレベルに合わせて伺い、自己決定できる場面を作るように努めている。飲み物、食事、入浴等その方に合わせた声かけをしている。パン屋さんが来た時には、外に出て自分で選ばれている。共同生活であるため、他の方に合わせて頂かなくてはならない時には、説明し、納得して頂けるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の日課は、ある程度決まっているが、その中でも一人ひとりのペースに合わせて希望を聞き、柔軟に対応できるように努めている。散歩の距離や食事の時間、入浴等、その方のペースで支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族と外出して散髪される方、訪問理容を利用される方がおられパーマをかけたり、毛染めされたり、希望により行っている。着替えは季節にあった服を声かけ、ご本人と一緒に選んだり、自由に選ばれている方もいる。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑に野菜と一緒に取りに行き料理を作ることもある。食事の準備や、片付けなど利用者様それぞれの出来る事を一緒にして頂いている。料理の仕方や味付け等、利用者様に教えて頂く事が多い。一人ひとりの苦手な物は把握し対応している。日曜日にはメニューを伺って食べたい物を作っている。	
			(外部評価) 週に3回は、食材の宅配を利用されている。その他は、宅配メニューを参考にユニット毎に職員が献立を考え、手作りされている。事業所の畑で野菜を作っておられ、調査訪問時の昼食には、畑で採れたかぼちゃや冬瓜、ゴーヤが食卓に上っていた。必ずご飯をお替りされる方には、カロリーの事を考慮し、一膳目から控え目によさうようにされている。一人で食べたいと居室で食事される方もいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日のカロリーを栄養士により管理された食事メニューを週3日間、それに基づいた職員食事メニューを4日間で提供している。毎日食事量のチェックをし、定期的に体重測定をしている。必要時には医師に相談している。その方に応じて食べやすいように配慮したり、水分が取れるように工夫したり計画に入れて取り組んでいる。水分が摂りにくい方にはチェック表を作って、一日の水分を確保している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後や寝る前の口腔ケアの声かけや一部介助をして、清潔を保てるように習慣付けている。週1度はポリドントをしている。職員は、利用者様の口腔内の状態の把握をし、口腔内に異常が生じた時は、歯科のDrの往診を受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、排尿の回数や排便の有無などの確認をしている。声かけが必要な方には、周囲への配慮をして声かけや対応をしている。一人ひとりの排泄パターンを知りトイレで排泄できるように努めている。布パンツ 紙パンツ等も状況を見て対応している。下剤を服用された時には申し送りをして、失敗が少ないように声かけて誘導している。 (外部評価) 入居時、紙パンツにパットを使用されている方がおられたが、段階的に支援して、現在は、布パンツを使用するまでに至った事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質の多い野菜や、毎日乳製品を摂って頂くなどしている。毎日散歩や体操をして体を動かして頂いている。、又、水分を摂って頂くように取り組みしている。腹部マッサージで促す場合もある。便の確認が明確でない方には医師に腹診して頂いている。必要な方には医師の指示により、下剤の調節をしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一日おきには入浴されている。対応できる範囲内で、希望の時間を伺って入って頂いている。希望があれば続けて入られる方もいる。入浴を嫌がる方には、タイミングをみて、声かけを工夫したり、ご家族に協力して頂くこともある。 (外部評価) 入浴を嫌がる方には、管理者と一緒に入浴されることもある。浴室にテレビの設備があり、テレビを見ながら入浴される方もおられる。入浴を嫌がられる方もあるが、ご本人が「入る気持ち」になった時、入浴できるように取り組まれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 散歩に出て光を浴びたり、廊下を歩いて頂いている。また体操やレクリエーションにも参加して頂いている。居室でこもりがちなお方には参加を呼びかけている。笑いのある雰囲気作りをして、活性化に努めている。様子により、ベットタイムを取って頂いたり、希望で休まれることもあるが、長時間にならないように配慮して、夜間ぐっすり休んで頂けるように支援している。必要な方には、ご本人、ご家族に相談して医師による薬の調整を受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更時等は目的、副作用、観察の仕方を医師や薬剤師の指示を受け申し送り、記録に残し周知して、日々の観察をして記録している。一人ひとりの服薬している薬の効果やリスクについて把握し観察できるよう努めている。服薬担当を決めて重ねて確認し、服薬支援している。飲み込みにくい方には、錠剤を粉末にしてもらう等、Drと相談している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その方の生き生き出来る事、喜ばれる事を一緒にして頂き、利用者様同士が支え合ったり、役割や張り合いを持って頂いている。散歩のコースを決めたり、食べたい物、行きたい所を聞いて外食や外出をしている。フラワーセラピーやアロマセラピーを楽しまれる方もいる。食べたい物をご家族に持って来てもらい一緒に食べたり、預かって伺いながら食べて頂いている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は毎日散歩に出かけている。車椅子や歩行不安定な方にも安全に出かけて頂けるように努めている。日々の買い物にはご本人の意思を聞き一緒に出掛けている。月に1,2回は外出をしている。ぶどう狩り、イチゴ狩り、釣り堀や外食等楽しまれている。ご家族と外食したり、喫茶店に行かれたり、美容室に行かれる方もいる。	
			(外部評価) 週に1度、近くのスーパーに食材の買い物に利用者と一緒に出かけられる。近くのコンビニやパン屋へおやつを買いに行かれることもある。又、喫茶店でケーキを食べたり、回転寿司で外食されることもある。8月末には、お弁当を持って、ぶどう狩りに行くことを予定をされていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 通帳や大金の管理はされていないが、入居時にご本人、ご家族と相談しいつでも使えるようにしている。出来る方には、散歩の時の買い物で支払いをして頂くことはある。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご希望に応じて、何時でも電話できるように支援している。ご自分の携帯電話を持ってご家族とコミュニケーションを取っている方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>外出時の写真等掲示してあり話題作りに役立っている。利用者様が散歩の途中にとりかえられた草花を生けている。料理の音や臭いに関心を持って頂いている。空調は利用者様に伺って温度調節したり、湿度や光にも気を配っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>テーブルには、畑で育てた観賞用のかぼちゃや、利用者が事業所の畑で摘んで来られたミニひまわりを活けておられた。神棚が設けられてあり、毎朝、利用者と職員で手を合わせておられる。調査訪問時は、テレビを見ながらお茶を飲まれたり、職員とともに体操をする利用者の様子がうかがえた。洗面所には、手拭用の小さなタオルがたくさん用意されており、手洗い後、毎回新しいタオルが使えるようにされていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングにはテレビ前にソファを置き、皆さんでテレビを見たり、キッチンの前にソファを置き、料理しながらコミュニケーションがとれる。入り口に椅子を置き、他の方と離れて過ごされたり、ご家族を待たれたり、二人でお話されたり思い思いに過ごせるようにしている。自分の食事の席が一番安心される方もいる。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時には、ご自宅で使い慣れていた馴染みの物を持って来て頂くようお願いし、机、椅子、棚、たんす、小物や大切な方の写真、位牌等持ち込んで頂いている。フラワーセラピーで、自分で作った作品も飾っている。居室の入り口には暖簾をしてプライバシーも保っている。テレビや扇風機を置いて自由に過ごされているかたもいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ベットの布団を毎日ご自分でたたむ方や、観葉植物を置いて水やりをされたり、日当たりのよいところへ移動させ大切にお世話をされる方もある。行事時の写真やご家族からのお手紙を飾っておられる方もあった。調査訪問時、ご家族の訪問があり、居室で一緒にひと時を過ごされ、居室から笑顔で手をつなぎ出て来られた方がみられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>居室の入り口にはそれぞれの暖簾を取り付け自分の居室が分かりやすいようにしている。必要な方には、居室入り口に名前を分かりやすいように明示し、なれて間違いがなくなれば除く等の対応をしている。トイレには、お手洗いと張り紙を変えることで分かって頂けた。タンスも中の物が分かるように張り紙をしている。その方の状況に合わせて環境整備を行っている。</p>	